

産業・組織心理学会 第99回研究会（作業部門研究会）

現場を探す・現場に入る

— 成功体験・失敗体験からそのノウハウを学ぶ —

本日の概要

<趣旨説明>

- 13:00～13:15 大橋智樹（宮城学院女子大学）

<話題提供>

- 13:15～13:45 災害現場に入る 申紅仙（常磐大学）
- 13:45～14:15 医療現場に入る 安達悠子（大阪大学大学院）
- 14:15～14:45 鉄道現場に入る 三沢良（電力中央研究所）

— 休憩 —

<指定討論>

- 15:00～15:20 細田聡（関東学院大学・労働科学研究所）
- 15:20～15:40 芳賀繁（立教大学）

<全体討論>

- 15:40～16:30 質疑・討議・フィールド紹介etc...

<懇親>

- 炭火串焼 東方見聞録（池袋西口エル・クルーセ店）

企画趣旨—着想

- 研究会の企画を考えるにあたって考慮したこと
- 1. 作業部門としての原点回帰を探ること
- 2. 部門横断的に関心が共有できるテーマを探ること

企画趣旨—背景

- キーワードは“現場（フィールド）”
- 他の学会とJAIOPとが異なる点は、研究プロセスのどこかに“現場”が介在することではないか？ 特に作業部門では、現場抜きに研究は成立しないといっても過言ではない。
- 一方で、産業・組織心理学会はその設立の趣旨に「研究者と実務家、個人と団体の有機的連帯」とうたっていることから、“現場”は4部門をつなぐキーワードになり得る。

企画趣旨—背景

- 皮肉にもこの「現場主義」こそがJAIOPの発展を妨げている要因かもしれない。
- （実験室実験や大学等での質問紙調査に比較して）「現場に入る」ことの難しさが“新規参入の障壁”となっている可能性は否めないからである（大学院重点化による業績主義の副作用？）。
- さらに、経営意識の変化・不況等による企業余力の低下、安全意識・倫理意識・個人情報保護意識・権利擁護等への社会の高い要求が、その障壁をさらに高くしている現状がある。

企画趣旨—まとめ

- 以上の着想と背景から、第99回研究会は“現場を探す・現場に入る”をテーマとした。
- 現場を探し、現場に入るノウハウについてその実体験を語り、経験の背後にある暗黙知を共有する契機を提供する場。
- 特に若手研究者を現場研究へいざない、JAIOPの特色を失わずに活性化をはかる一つの契機としたい。

企画趣旨—たとえば…

- 個人的な成功体験として
 - 日本経営工学会Kaizen & Ergonomics部会夏季研修会における事業所等への協力要請（2010宮城・松島）
- 同じく失敗体験として
 - 「実践ゼミ」における現場調査でショッピングセンター等への協力要請（2007~2010仙台）
- その他：
 - 北陸地方の某中学校における「学習性無力感」の現場実験（2000北陸某所）

話題提供者への依頼内容

- A) 依頼から研究受け入れまで
企業・事業所・行政等に調査等をどのように依頼したか
- B) データ収集段階
知見を得る過程での工夫・難しさ
- C) 得られた知見について（←通常の話題提供）
- D) 成果報告から次へのステップまで
研究結果のフィードバックの方法、先方の受け止め方など

フロアへのお願い

- 本企画は、JAIOP研究会としては異例の長い討論時間を設定した。予定では40分、17時少し前まで延長することも可能＝最長80分。
- <討論>15:40~16:30 質疑・討議・フィールド紹介etc...
- フロアからの積極的なご参加をお願いします。皆さんお一人お一人にご発言をいただければ...